会 議 記 録			
会 議 の 名 称	環境厚生常任委員会	会議場所	第1委員会室
		担当職員	坂田
日 時	平成25年7月29日(月曜日)	開 議	午前 10 時 00 分
		閉 議	午前 11 時 33 分
出席委員	明田 酒井 苗村 竹田 藤本 眞継 立花 西口		
理事者出席者	西田環境市民部長 中川環境市民部担当部長 吉村環境政策課長 塩尻環境政策課担当課長 中西環境政策課副課長 辻村環境クリーン推進課長		
事務局	阿久根副課長、坂田		
傍聴者	市民 1名	報道関係者 - 名	議員 - 名()

会 議 の 概 要

1 開議

2 事件

(1) 行政報告

[理事者入室] 環境市民部

< 環境市民部長 >

あいさつ

・ 亀岡市ごみ処理施設整備改良工事の進捗状況について

< 環境クリーン推進課長 >

資料に基づき説明

~ 10 : 06

[質疑]

< 西口委員 >

燃焼設備の余熱等有効利用についての検討は。

< 環境クリーン推進課長 >

検討済であるが、発電については活用が出来る程のごみ処理量でない。

< 環境市民部長 >

余熱利用については場内の給湯や暖房に活用している。また予熱器により燃焼空気の温度を温め燃やしやすくしたり、煙突からの白煙を防止するために活用しており、現在の焼却炉で利用できる範囲について有効活用している。

< 明田委員長 >

今後の検討は。

< 環境市民部長 >

ごみの減量を進めると処理量は減っていく。発電機を導入している自治体例では最低150トン以上の連続的な能力が必要になる。今後発電機やボイラーの性能など技術開発が進む中で、施設の更新や広域化とあわせて検討する。

< 藤本委員 >

温水プールやウナギの養殖等、多種に渡っての余熱利用の検討は。

15年間施設の安定稼働とあるが、メンテナンスや改修の必要はないのか。

<環境市民部長>

桜塚クリーンセンターの立地条件は水の確保が難しく、現在は井戸2本で地下水を使用している。当時の計画でプール等も検討したが水量の確保が出来ないため断念した。

維持修繕は必要であり、定期点検や部分修繕等は毎年必要になる。

・亀岡市環境白書データ集について

<環境政策課長>

資料に基づき説明

～ 10 : 25

[質疑]

<西口委員>

P 1、大気について放射能の測定が必要では。

P 7～8、水質について七谷川の測定地点がキャンプ場付近と河川上流であるが、もっと下流で測定するべきでは。

<環境政策課長>

放射能は災害時の対応と考える。測定するのであれば災害対策本部等が京都府と連携しながら測定地点等を決定することになる。

測定ポイントの決定経緯は把握していないので調査し回答する。

<西口委員>

今後のために放射能の項目は増やすべきと考える。水質の測定ポイントは七谷川だけでなく、他の河川も上流に測定ポイントがあるのではないか。

<環境市民部長>

提案については今後検討する。河川の測定ポイントについては以前に何らかの原因で汚濁など影響があった箇所測定地点が設けられたと認識している。詳しくは調査して回答する。

<西口委員>

七谷川の測定ポイントはキャンプ場が最下流か。

<環境市民部長>

そのとおりである。

<苗村委員>

P 54、空き地の雑草について、2つめの表の合計数値は間違いではないか。

<環境政策課長>

間違いである。再度点検し訂正する。

<藤本委員>

P 1、大気について、中国の大気汚染PM2.5の影響は。

P 52、ダイオキシンについて、桜塚クリーンセンター以外で東西別院にある産業廃棄物処理施設付近のダイオキシン濃度の確認は。

P 55、苦情処理について、雑草パトロール等により所有者に指導し適切に処理されているのか。

<環境政策課長>

PM2.5について春頃に京都府の測定において基準値を超えた日もあり、各市町村に緊急避難を通知するシステムも構築されているところである。測定は京都府が定期的にしており、1～2ヶ月前から影響もなく落ち着いてい

るとの情報提供がある。

産業廃棄物処理施設の影響については、本市が独自に調査や測定はしていない。何かあった際に京都府が指導等対応をしている。

連絡がつくところは適切な処理はされているが、通知をしても宛名不在等で返送される場合は、時間はかかるが転出先を調査し対応している。

< 藤本委員 >

再度確認だが、本市の管轄内であっても産業廃棄物処理施設については市独自の対応はしていないのか。

< 環境政策課長 >

産業廃棄物処理施設の対応は京都府となる。市として直接的に関わっていない。

< 立花委員 >

P 1、大気について測定結果のみで測定地点の記載がない。測定地点の記載が必要では。

P 9、河川水質測定結果に数値の記載はあるが基準値が解らない。記載が必要では。

< 環境政策課長 >

測定地点については京都府農林センターで常時24時間365日測定している。次回から記載出来るように検討する。

P 29に記載しており、本市はB類型に該当する。

< 立花委員 >

大気の測定地点は1ヶ所でなく複数箇所の測定地点が必要であり、誰が見てもわかる本市の環境白書の作成を願う。

< 酒井副委員長 >

放射性物質の測定は必要であり、公害白書として時代に合わせた白書にするべきである。また測定時間の根拠が解らなく記載もない。年度比較もあるが同時間帯の比較なのか不明である。今後において役に立つ白書の作成を願う。

[理事者退室]

(2) 行政視察について

< 明田委員長 >

視察報告書のまとめを配付した。確認を願う。

< 酒井副委員長 >

報告書に基づき説明

< 立花委員 >

視察の結果を本市に活かす事が大事であり、その視点でまとめて理事者側に伝えるべきである。視察の名称や概要は簡潔にし、委員の意見等を中心に常任委員会として考察をまとめた方が良いと考える。

< 竹田委員 >

立花委員の意見のとおりだと思うが、前回までの委員会でそのような意見が無く、まとめを行うとするだけであった。今後、課題が出た場合に政策提言するというスタンスが委員会の共通認識であった。

< 酒井副委員長 >

詳細な内容を記入しているのは、市民が視察報告書を閲覧した時に解りやすくという利用者の視点で作成した。委員の意見等は意見が違う委員もあり削らずに記

載した。考察が今後において本市に活かしていく部分であるが、各委員の報告書から考察をまとめるのは困難であったため、今後議論して作成してはどうか。委員会として今後どうしていくか意見を聞きたい。

< 藤本委員 >

まとめについては良いと考える。考察と委員の意見等の順序を入れ替えて、委員の意見等を先にし、最後に考察があったほうが閲覧者が読みやすく分かりやすいのではないか。

< 酒井副委員長 >

議会運営委員会の報告書の様式を使用したのだが、そのほうが良ければ順序を入れ替える。

< 苗村委員 >

考察が大事であり委員会として十分に議論をすべきと考える。もう一度場を設けるのが良いと思うが日程も難しく、期限を決めて意見を集約してはどうか。

< 明田委員長 >

1週間を目途に抜本的にやり直すか修正を加えるか事務局まで報告し、その結果、修正のみの場合は修正を行い次回開催前に配付し委員会で確認を願うのでどうか。

< 酒井副委員長 >

考察を委員会で作り上げるのであれば、事務局に報告するのではなく、今後の月例で議論をしながら作り上げてはどうか。

< 眞継委員 >

視察後に委員会として、今後どのようなアクションを起こすことが出来るかが考察の部分であるが、担当部署が報告書として受け取りアクションを起こすかどうかは分からない。昨年も具体策を出してもらったためのアクションをどうすれば良いかまで辿り着けず報告書を提出して終了した。非常に難しいが考察を作成する際に委員会としてアクションを起こすのかで作り方が変わると思う。委員会として次のアクションに繋げる考察をまとめるのであれば、もっと時間を掛けても良いと考える。

< 酒井副委員長 >

委員会で確認しないで、具体的にこうするとは書けないので具体的なアクションに繋げるのであれば、委員会として議論をする必要がある。去年は8月に執行部との意見交換を行ったが、定例会での答弁と変わらなかった。今後は議会が独自に調査をする必要もあると考える。そういった話まで詰めるのであれば報告書だけでは足りないと思う。報告書に具体的に書くか、報告書はこれで提出し委員会の月例テーマとして進めていくか、どちらでも良いが委員会として議論が必要である。

< 立花委員 >

報告書の考察が委員会としての共通認識であり、正副委員長で理事者に提出してはどうか。各委員の感想や意見は委員の意見等に記入があれば、今後どう実現していくかは一般質問や委員会時に執行部に対し課題や問題点について質問意見を重ね、その方向に持っていけば良い。先程提案があった1週間の期限で修正があれば事務局に報告し、次回に考察部分の確認を行えば良いと考える。

< 竹田委員 >

理事者側への報告は今まで正式に提出したことがないので、各委員会統一し議長に報告したうえで議会の意思として理事者側に提出する必要がある。各委員の個

人的な意見については一般質問で行い、基本的な部分については理事者懇談会といった形で執行部とのすり合わせが必要と考える。

< 明田委員長 >

議会運営委員会では各委員会で委員長がまとめること以外に、理事者側への報告等は決まっていないのか。

< 事務局 >

視察報告として復命書を委員会から議長に提出するものであり、それ以上のことは決まっていない。

< 明田委員長 >

単独の委員会で理事者に提出するのではなく、議会として議長から理事者に提出してもらうよう議会運営委員会での検討を願う。

< 藤本委員 >

理事者への提出は必要と考える。考察については今後の月例テーマで議論するのも良いと考える。

< 西口委員 >

報告書の内容は詳細であり委員の意見も全て書かれている。先程の委員長提案の通り考察について補足する点があるのならば1週間の期限の中で事務局に報告すれば良いと考える。

< 酒井副委員長 >

執行部が参考までに報告書を見るのは構わないが、報告書の考察を委員会でまとめるのは委員会として行動していくためのステップであり、執行部に見せるのであれば、まとめた後で提出してはと考える。報告書を提出して終わりではなく、委員会としてその後に月例のテーマ等で追いかけていければと考える。

< 明田委員長 >

考察と委員の意見等の順序についてはこのままで良いか。

< 全員了 >

< 明田委員長 >

視察報告書について意見があれば1週間を目途に事務局まで報告を願う。

< 全員了 >

3 その他

次回月例開催について

< 明田委員長 >

次回月例開催日については8月23日(金)午前10時からとする。

< 全員了 >

散会 ~ 11:33